

編集を終えて

「戦後80年おきなわ女性のあゆみ」編集委員会
委員長 宮城 晴美

読者の皆さまが、感銘を受けられるのではないかと自負しつつ、『戦後80年おきなわ女性のあゆみ』をお届けいたします。

30年前の『戦後50年 おきなわ女性のあゆみ』（『50年のあゆみ』）に続いて、本書では敗戦後の平和な沖縄の社会づくりに貢献し、沖縄の枠を超えて大きな実績を残された109人の女性の皆さまにご登壇いただくことができました。『50年のあゆみ』で紹介された先達の生き方に触発されながら、ご自身の「道」を切り拓いて来られた昭和戦前期生まれの方、さらにそれを受け継ぎ、それぞれの分野の第一線でエネルギーに活躍してきた戦後世代も、すでに後継者を育てる役割を担いつつ、本書で光を放つ存在となっています。

ふだんはメディアを通して、一見華やかな人生を送ってきたかのように思える方々が、不遇や貧困の試練を乗り越え、子育て・介護を経て、あるいは職場、社会のジェンダー差別に抗しながら社会的地位を築くまでの、前向きで逞しい生き方を吐露されています。皆さまに共通していることは、人生の岐路に立った時、家族や周りの励ましを享受し、ご労苦を乗り越えて人々の豊かさや幸せを願い、社会の変革に寄与してきたことだと言えます。改めまして、本書掲載のご依頼に快く取材や写真提供に応じてくださり、ご協力いただいたご本人、ご家族の皆さまに心よりお礼を申し上げます。

こうした、沖縄の誇り高き女性たちに出会える機会を与えてくださったのが、沖縄県による2025（令和7）年度「戦後80周年平和祈念事業」です。こども未来部女性力・ダイバーシティ推進課のスタッフを中心に「戦後80年おきなわ女性のあゆみ編集委員会」を立ち上げ、その運営、発刊にご尽力いただいたこと、そして本書巻頭のごあいさつで、玉城デニー知事ご自身が、激動期を生きた二人のお母さまについてご紹介されていることに、沖縄県の、本書の企画への並々ならぬ熱意が感じとられ、改めて敬意を表する次第です。

それにしても、昨年8月中旬の編集委員会設置から7カ月あまり、時間との闘いの編集事業でした。県内市町村や女性団体などへ人物の推薦を求め、監修の大城貴代子・前おきなわ女性財団理事長を中心に8人（当初は9人）の編集委員で「編集方針」に基づいた検討を重ねて、できるだけ幅広い分野から人選を進めてきましたが、時間的制約もあり109人に留めざるを得ませんでした。

また本書では、82人（編集委員8人・委員以外74人）が執筆にあたりましたが、人物編を読み進めやすくするため各章に時代背景を含めた概説を設けたうえ、若い世代には、沖縄女性をとりまく世相を紹介したコラムを執筆していただき、戦後80年間の沖縄女性史を補完する役割を担ってくれました。何より、人物編の執筆にあたった皆さん、お忙しい合間を縫って、心を込めて取材してくだ

さいました。「この機会があったので、なかなかまとめて話を聞くことのない先輩方に話を聞けた」と喜びのコメントを伝えてくださった方もいます。この書を編むプロセス自体が、先達からの継承と、同時代のネットワーキングになっていると感じました。僭越ながら、私自身も関わらせていただいたことを誇りに思っています。

この『あゆみ』を、若い世代を含む多くの方に手に取っていただけるよう、表紙のデザインにはぜひ沖縄の若手の作品を使わせてもらいたいと沖縄県立芸術大学にご相談したところ、院生や卒業生による染め織りや漆器の素晴らしい作品を快くご紹介くださいました。その中から染分野の上原希天さんの紅型作品をお借りしました。伝統とモダンさが融合し、心まで晴れ晴れするようなデザインが本書の魅力を引き立ててくださったと感謝しています。

この短い時間枠の中で、事業を受託した琉球新報社には大変お世話になりました。三人のスタッフを送り込んで編集作業に従事させていただいた他、人物編の執筆には、元・現職記者の動員で候補者の居場所探しからはじまった記者さんもいます。また16人のデスク陣が校正作業のバックアップをし、デザインチームがレイアウトを行ってくださいました。それに写真の提供にもご協力いただき、地方新聞社のスキルと人脈、アーカイブをフル活用して完成にこぎ着けることができました。編集事務局、編集委員ともども感謝の意をお伝えします。併せて、ている図書情報室の協力により、沖縄女性に関わる出来事を年表として丹念に掲載することができたことも、本書の資料的価値を高めてくれるものと確信しています。

敗戦から80年、女性を取りまく環境や生き方も大きく変わってきました。とりわけ、沖縄県が2021（令和3）年3月26日に、「すべての県民の尊厳を等しく守り、個々の違いを認め合い、互いに尊重しあう共生の社会づくりを目指す」と提唱した「沖縄県性の多様性尊重宣言（美ら島 にじいろ宣言）」によって、誰もが生きやすい環境づくりが進められつつあります。さらに、2023（令和5）年4月には「沖縄県差別のない社会づくり条例」が施行されたことで、その基本理念の実現に向けた取り組みもはじまりました。

一方で、軍事基地を抱える沖縄には様々な課題も山積しています。私たちが平和で豊かな社会を築き上げるよすがとして、曾祖母や祖母、母の人生哲学に学び、平和を希求する〘沖縄のこころ〙を発信し続けるためにも、本書がその一助となることを願って止みません。

2026年3月